
月蝕

双月

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

月蝕

【Nコード】

N8021D

【作者名】

双月

【あらすじ】

この世の人は皆、心に鬼を飼っている。そんな話を幼少時から祖父に聞かされ続けた少女、望月。この世の鬼を視る彼女が、『なにか』に出会った時。彼女の世界は、確実に変わって行った。

序

この世にいる人は皆、心に鬼を飼っているらしい。

「いいかい、望月^{もちつき}。よく聞くんだ。

人は心に鬼を飼う。鬼は心に何時も在る。

鬼は人が死んだ時に初めていなくなる。

決して、鬼に負けてはならないよ。」

小さいころ、私は祖父にそういわれ続けた。

そのたび、私はいろんなことを思ったものだ。

鬼ってなあに？

どうして人は鬼に負けちゃいけないの？

鬼はどうして、人の心に在るの？

負けるときって、どんなとき？

でも、何故か、私はそれを祖父に聞けなかった。

大好きな祖父でそのほかのことは何でもいえたり聞けたのに、

何故かそれだけは、聞けなかったのだ。

祖父は聡い人であったから、多分私が聞けないでいることにも気づいていただろう。

だけど、祖父はそれを私に尋ねさせようとはしなかった。

だけどその代わり、必ずこうしてくれた。

まず、穏やかに笑う。

それから、私の頭をやさしく撫でる。

そして、穏やかに私に向かって云うのだ。

「鬼っていうのはな、本来怖いものではないんだよ。むしろ、優しいものなんだ。本来はね。」

なら、どうして負けちゃいけないの？

そんな疑問は常にあった。

だけどやっぱり、私は祖父に聞けなかった。

月日は流れた。まるで祖父のように穏やかに。

月日が流れれば、私も成長する。祖父も同様。

いや、祖父は成長、というよりも、

確実に人生の終着点へと向かっている。

すなわち、段々と老いていった、というのが正しいけれど、

でも、成長、という言葉は私は使った。

そのほうが、なんとなくしっくり来たのだ。私には。

とにかく、月日は流れた。

私と祖父は、お互いに『成長』した。

そして私が中学を卒業した翌週に、祖父は『成長』をやめた。

最後の最後まで穏やかに、ゆったりと優しく『成長』を止めたのだ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8021d/>

月蝕

2011年1月16日02時27分発行